

マンション問題総合研究所理事長

喜田 大三



新年あけましておめでと
うございます。

皆様にはご健勝にて良い年
を迎えられ心からお喜びも
うしあげます。

わが国は、「経済も環境も
より良くし持続発展する社
会」をめざしています。四十
数年前からエネルギー・資源
を輸入し高度経済成長をなし
とげ、物質的に豊かで便利な
生活ができるようになりまし
た。しかし、各種の公害が発
生し、自然や人間が甚大な被
害をうけています。そこで、
今世紀は経済も環境もより良
くする時代です。豊かな生活
で忘れがちな「もったいな
い」の心をもって、エネル
ギーや資源をムダなく活用し
ましょう。

本誌の第75号と第78号に、
自然・人類に被害をもたらす

地球温暖化とその防止に関す
る短文を書きました。一定規
模以上のマンションでも、大
規模修繕だけでなく増築・建
替の際に法律に従って省エ
ネ措置を推進する義務があり
ます。

日本をはじめ先進国は、エ
ネルギー源の石炭・石油など
を燃やし、温暖化ガスの二酸
化炭素を大量排出。十年前、
京都で国際会議を開き、先進
国の温暖化ガス削減割合をき
めた「京都議定書」を採択、
二年前に発効。日本の義務は
一九九〇年に比べ六%減で
す。八%も多い現状から六年
以内に十四%削減するには、
「もったいない」の心で相当
の努力をしなければなりません。
省エネの生活様式や技術
を国内に普及するだけでなく、
省エネ技術を海外に輸出
しガス排出権の取得も検討し
ています。

昨年十月、京都を訪ねまし
た。さすが「京都議定書」
の都市だけに、各家庭に百頁
余の「京のごみ減量事典」
を配布。ごみ減量が、地球温
暖化防止に大切であることを

わかりやすく説明。表紙には
「もったいないの気持ちで環
境にやさしい暮らしをしよ
う」と付記。

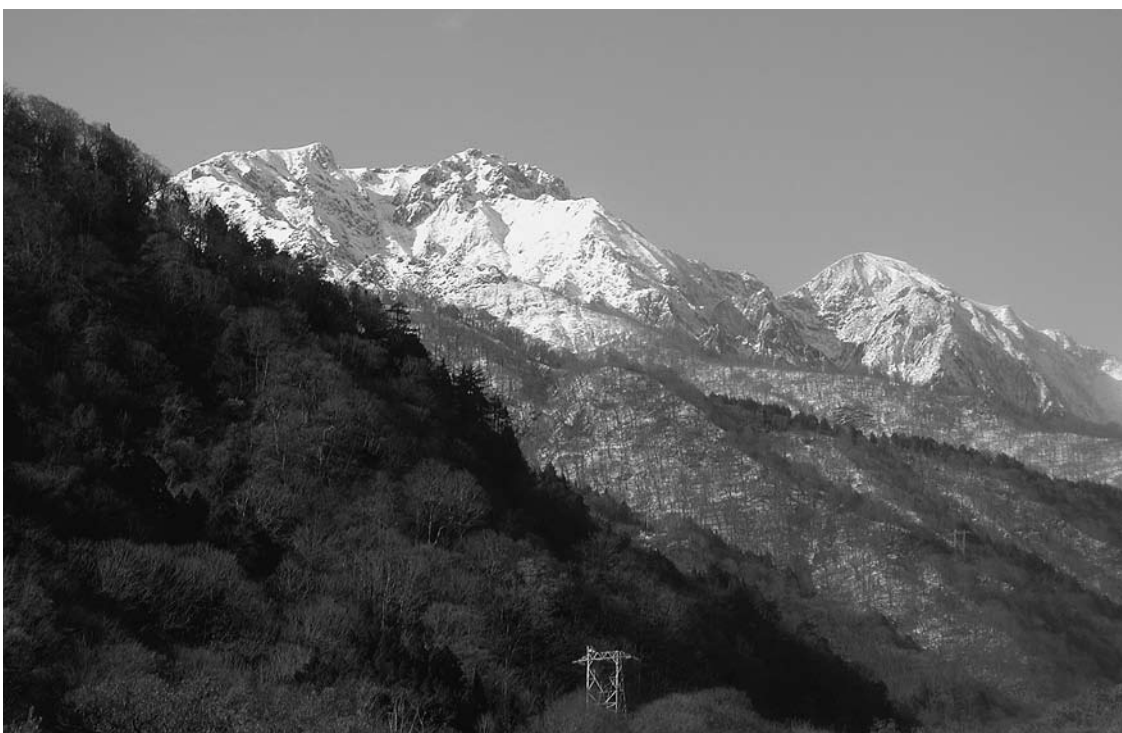
生活・産業活動の廃棄物に
ついて「ごみの3R」をご
存知でしょうか。ごみを減らす
「リデュース」、再利用する
「リユース」、資源として再
生利用する「リサイクル」。

「ごみの3R」は、エネルギ
ー・資源を有効利用して「脱
地球温暖化社会」や「循環
型社会」をつくるのに役立
ちます。大量生産・消費・廃
棄の社会で忘れていた「も
ったいない」の心を取り戻
しましょう。

ケニアのワンガリー・マー
タイ女史は、二〇〇四年に環
境保護を評価され、アフリカ
系女性として初のノーベル平
和賞を受賞。三十年間にケニ
ア全土に三千万本の木を植
え、砂漠を緑化しました。二
〇〇五年に来日され、日本の
「ごみの3R」に共感し、
「モツタイナイ」の日本語を
国際語にすることを目指し、
さまざまな活動の場で使い始
めています。

組合員の皆様、「もったいな
い」の心で、日常生活の
ごみを減らすだけでなく、貴
重なマンション建物を適切に

修繕・改修して長持ちさせま
しょう。快適なマンションラ
イフとエコライフの共存を期
待しています。



新雪の谷川岳